

2022年度 大学入学共通テスト 数学 I A(本試験) 分析

試験時間70分

難易度	出題分量	出題傾向
難化 全体的に方針が立てにくい 問題が多く、時間内に解き切 るには難しかった。	変化なし ページ数は減少。しかし、思 考力が必要な問題が多く、1 問あたりの時間は増えた。	目新しい問題が多く、測量問 題における図の縮尺等、数 学だけの知識に限らず一般 常識が必要な問題であった。
総評 「2次関数」と「図形と計量」、「集合と命題」といった融合問題が登場。話の展開が読めず、昨年以上に解答の方針が立てにくくなった。公式の丸暗記でなく、試行させる問題が多く、『思考力』を要求された問題であった。日頃から公式の暗記で問題に取り組んでいる生徒には、厳しい内容だったと推測される。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]数と式 [2]図形と計量 [3]2次関数	30点	[1]丁寧に誘導されているので解きやすい。 [2]縦横の縮尺が異なる図に戸惑った生徒も多かったのでは。縮尺さえ直せば解けてほしい。 [3]三角比から2次関数に発展する問題。 \sin の定義に気づければ、流れに乗って解けたであろう。
第2問	[1]2次方程式・集合と命題 [2]データの分析	30点	[1]2次方程式とグラフとの関係性、必要十分条件と高い思考力が要求される問題。 [2]箱ひげ図を読み取り、散布図と比較できるかがポイント。点を細かく見なければならぬ。
第3問	場合の数・確率	20点	完全順列(モンモール数)の問題。前の結果をいかに次につなげるかがポイントとなった。
第4問	整数の性質	20点	1次不定方程式の問題。前半は解きやすいが、後半は数が大きくなり、計算力が必要。
第5問	図形の性質	20点	長さが与えられず比だけでスタートし、具体性に乏しく戸惑ったのでは。作図能力が問われた問題。

次年度以降の受験生へのワンポイントアドバイス

学校の定期テストの様に、公式丸暗記では太刀打ちできない試験だと言える。根本の理解が要求されるので、『こうなったら、どうなるだろう?』といった、常に問題に対して考察するという意識を持つことが重要。学校の教科書・問題集をベースに問題が示している意味を把握しながら、今後の学習に取り組んでほしい。